

宮城県美田園高等学校
令和5年度 第1回学校評議員会 記録

1 日時

令和5年6月25日(日) 13:45~15:20

2 会場

宮城県美田園高等学校 会議室

3 各評議員からの助言

【A評議員】

・地域スクーリングについて、始めた当時のことを思い出した。スタートは震災前だったこともあり、気仙沼の生徒も気仙沼線快速で来ることができる場所として美里町駅東地域交流センターを選定。現在は交通状況も違っており、会場の再選定も必要かもしれない。また、学校を会場にすることについては検討が必要だろう。気仙沼高校を会場にした回は全然生徒が来なかった一方、同じ気仙沼でも学校ではない会場にした回は生徒が全員来たという経験もある。

・個別スクーリングについて、在り方の議論は繰り返すものだと感じた。不断の取組が必要なことなのだと思う。その際に、「私は〇〇な環境ならもっと学習しやすい」という生徒の意見を汲み上げてみてはどうか。意見を採り上げられた生徒の成功体験にも繋がる。

・中高情報交換について、より確実な実施のためには県レベルでの対応が必要ではないか。特に~~仙台市立中学校は情報を出さない。~~

・中学生にとって、美田園高校は完全に進路先の一つになっている。多様な在り方の一つとして、高認験で進学という選択肢をもっとアピールしてもいいのではないか。

【校長】

・学習や進学への意欲が高い一方、前籍校での経験がトラウマとなって自己肯定感の低さに繋がり、なかなか前に進めない生徒が、先生たちと話していく中で自分の思いに気付いていくというケースは多いと思われる。今年度の進路指導は、こうした点にも目を配って進めるようお願いしている。

【A評議員】

・令和8年度開校予定の新しいタイプの学校について、過去の事例から、マスコミの関心が高いのはこうした学校ができるまで。通信制の学びに関する発信にこうしたマスコミを活用することも考えてはどうか。

【B評議員】

・地域スクーリングについて、どこで勉強するかは大変重要。地域の集会所で行う放課後の学習会が盛況という場合も多い。通信制に通う生徒は学校への苦手意識が大きいと思われるため、地域スクーリングの会場は学校ではなく、地域の施設の方がいいのではないか。

・現在の中学生は、コロナ禍の学習経験や一人一台端末の経験から、eラーニングとの相性が良いのではないか。通信制の学びについて、親よりもこうした生徒の方が理解が進んでいるはず。一方で、通信制の仕組みを親や中学校に分かってもらうには長い時間がかかると思う。

・広域通信制高校や私立の通信制課程に関する宣伝の場が多いことから、保護者や中学生が公立の美田園と広域や私立とを混同している可能性もあるのではないか。

・評議員会で発言した要望や意見に学校がすぐに応えてくれるのは有り難い。先生方は大変だと思うが。

【C 評議員】

・中学校は通信制高校を進路先として捉えていないのではないか。中学校の先生方は様々な業務があって忙しすぎるうえに、全日制以外にはなかなか目が向かないこともあって、中高情報交換が上手くいかないのではないか。

【A 評議員】

・進学先を退学して美田園高校に入学する編入生のお話を中学校が聞く場面があれば、通信制高校に対する中学校の理解も深まるのでは。

【C 評議員】

・防災について、ハザードマップだけでは分からない内水氾濫等のリスクも考える必要があるのではないか。専門家の知見を踏まえた避難訓練が必要である。

【B 評議員】

・一斉メールによる生徒への連絡について、LINEの方が通じやすいと思われる。
・防災に関しては、学校から連絡が来る前に各自で判断できるように指導する必要がある。
・美田園高校の浸水・津波対応としては、垂直避難、安否確認、危険な地域に近寄らないという訓練が基本になるだろう。

【校長】

・美田園高校からのメールを開く習慣をつけることも防災の一環という意識を持っており、そのためにさまざまな場面での一斉メール活用を進めているところである。

【C 評議員】

・現在も0単位一般生（主に中学校から進学してくる生徒）が3年間で卒業する割合は3割程度か。

【教頭】

・現在も3割台であるが、先生方から3年間で卒業を勧めることはほとんどない。生徒自身が自分に合ったペースを見つけることを大切にしている。

【B 評議員】

・自分が保護者としていたときは、先生方も「通信は4年間で」とよく言っていた。

【A 評議員】

・3年卒業にこだわることなく、5年、6年と在籍してもいいし、1年、2年で高認験で進学してもいい、それが美田園高校らしさということではないのでは。